



俳句TVミニ講座 入門編

第2章 俳句の鑑賞



ここでは俳句を詠むための鑑賞方を学びます。

A group of four students are sitting around a table in a library, engaged in a study session. They are looking at a laptop and some papers. The background is filled with bookshelves. The image has a semi-transparent blue overlay on the left side.

第2章 ～俳句の鑑賞～

第2章では、俳句を鑑賞するためのポイントを説明してゆきます。

The image is a composite of two photographs. On the left, a person is shown from the chest down, wearing a light blue denim jacket over a white t-shirt and carrying a grey backpack. On the right, there is a close-up of a gold-colored alarm clock with a white face and black numerals. A dark red banner is overlaid on the bottom left of the image, containing white text.

俳句鑑賞とは

「起こり」「歴史」「展開」

この三つのポイントを中心に説明してゆきます。

第2章 ～俳句の鑑賞～ No 2 俳句の歴史

俳句は江戸時代前期に松尾芭蕉によって文学として高められ全国に広められたと言われています。

俳句の歴史とは？

俳句は江戸時代前期に松尾芭蕉が大成したとされています。

芭蕉は全国に門下として弟子を設け彼らを訪ねる旅をしています。紀行文としての「奥の細道」は芭蕉代表作とされています。

門下とは、蕉門と言われる芭蕉の俳句に集まる弟子達のこと、その流派を蕉風と呼んだ。談林風と呼ばれる西山宗因、さらに坂登り歌人でもある松永貞徳ひきいる貞門風などに続き、江戸時代の俳諧の祖とされている。

例句

荒海や佐渡によこたふ天河（芭蕉）・秋

江戸時代前期に旅の俳人「翁・おきな」と呼ばれた松尾芭蕉が「奥の細道」越後路の抄で詠んだ句です。名句として知られています。

句の解釈

季語は「天河」秋。

波の音も高い北の荒海、彼方を眺めると佐渡の島が横たわり、天空には銀河が七夕の夜にふさわしく帯となって輝いている。天河は「銀河」「銀漢」と言われ七夕伝説を想わせる。

A composite image featuring a group of diverse people walking in a field under a blue sky on the left, and a stack of books and a notebook on a gravel surface on the right. A yellow banner with Japanese text is overlaid on the left side.

それでは次回は～俳句の鑑賞No 3「展開」～
です。お楽しみに！